

2. 若いパワーでまちを元気に！

音楽でしんことにを元気に！

～新琴似音楽祭実行委員会の取り組み～

新琴似音楽祭実行委員会 実行委員長 こんどう 近藤 わたる 亘

1. 背景

昨今、市民生活が多様化している社会環境の中で、国の調査では、物より心の豊かさを重視している人が61%と半数以上を占め、昭和47年の調査開始から過去2番目の割合となっています。(内閣府「国民生活に関する世論調査」平成26年6月調査)

“もの”に依存する消費社会は転換期を迎え、社会全体の流れが「システム化」「機械化」し人間関係が希薄になっている現代でこそ“ひと”との繋がりが求められている事であり、改めて見直す時ではないでしょうか。

新琴似地区は、以前から多くの諸先輩の方々が様々な文化芸術活動を行ってきました。それは現在でも継承され、様々なジャンルの活動団体が存続、意欲的な活動を続け、その積み重ねが今の新琴似の豊かな魅力を支えています。

平成26年冬、新琴似連合町内会をはじめとする関係各位のお力により「新琴似中央公園」に簡易ステージが完成いたしました。この機会を与えられた今こそ、更なる新琴似地区の心の豊かさを中心とした文化芸術の定着と発展が求められています。

2. 歩み

●すべてのはじまり●

平成26年8月、雨に見舞われた夏祭りの夜。ステージでは激しいライブが行われていました。…が、その会場には、豪雨が襲い、冷たい雨風に吹かれ疲れきった表情のスタッフ、ガラガラの観客席。この皆が不幸を感じていたであろう空間。たまたまそこにいた3人の、「会場にいる全員が楽しめるライブがしたい！」いや、「自分達自身が楽しめ、笑顔になれるライブがしたい！」だったかもしれない。そんなその場の気分と単純な思いつきのはじまりでした。

●夢物語●

その年の秋、単純な思いつきの3人にやや冷静な1人が加わり「実行委員会」は生まれました。しかしそれから半年位の間、これが面白いあれをやってみみたい等々、集まっては馬鹿な話し合いの日々。会議を重ねても具体案は一向に出ず、そのうち開催に諦めの気持ちが…。

●気づき●

それを打開してくれたのは周りにいる“ひと”。地域の諸先輩方の協力でした。それも驚く程あっさりと。当初は地域の自治組織などに見えない壁を感じ、関わりを極力控えていました。「自分たちが目指しているものが出来なくなるのでは」そんな思いが強かった。しかしそんな思いはなんのその。相談や協力依頼をする度、ほとんどの方々が躊躇することなく、気持ちよく力を貸してくれました。そしてそこから止まりかけたものが動き始めたのです。結局、壁を作っていたのは自分だ。そう気付かされました。

●地域力●

再び動き出してから活動は順調でした。実行委員の数も少しずつ増え、各々が得意分野を発揮し、課題を一つ一つ克服していき、それに伴い周りの協力者も増えていきました。今まで関わりのなかった方々と出会い、またその能力の高さに驚



◆音楽でしんことにを元気に！

き、地域の潜在能力の高さを強く感じました。この地域力こそが「新琴似」の宝だと、活かすべき一番大切なものだと確信するに至りました。

似西連合町内会

その他：事業の趣旨に賛同した団体・企業及び個人

3. 取り組み

●目的●

地域住民が自ら創る文化イベントとして、新琴似地区に住んでいることの誇りを感じてもらい、また、年齢や性別に関わらず多くの方々にご来場いただくことにより、地域の活性化や心の豊かさの向上を図る事を目的としております。

テーマに「気軽に行ってみようと思える音楽イベント」を据え、下記の目標を掲げております。

- ①誰もが参加しやすい出演者、観客、運営者が一体となった音楽祭
- ②新琴似地区での文化芸術活動の定着と推進
- ③本音楽祭を起点とした異世代交流から起こる地域の人材発掘及び地域コミュニティへの理解と参加の促進及び地域力の拡大

本音楽祭の開催にあたりましては、「新琴似を元気にしたい」という初心を忘れずにご参加、ご協力くださるすべての皆様に来てよかったと言っただけの音楽祭に育てていきたいと考えております。

●対象●

新琴似地区住民及び地区外の住民

●主要事業●

新琴似音楽祭～音楽でしんことにを元気に！～

- 実施日 第1回：2015（平成27）年9月6日
第2回：2016（平成28）年9月11日
- 場 所 新琴似中央公園（札幌市北区新琴似8条11丁目1）
- 内 容 ジャンルを問わない楽器演奏および楽器演奏に附随した歌唱発表を主とする（事前選考による）
- 入場料 無料
- 実施者 主催：新琴似音楽祭実行委員会
共催：新琴似連合町内会
後援：札幌市・札幌市教育委員会・新琴

●その他事業●

新琴似カラオケコンテスト～プラザで歌ってみた。～

- 実施日 第1回：2016（平成28）年2月21日
第2回：2017（平成29）年2月19日
- 場 所 プラザ新琴似（札幌市北区新琴似7条4丁目1-3）
- 内 容 カラオケによる歌唱発表を主とする（カラオケ機器による採点）
- 入場料 無料
- 実施者 主催：新琴似音楽祭実行委員会
後援：プラザ新琴似運営委員会

4. これから

昨年9月、第2回となる「新琴似音楽祭2016」を開催させていただき、多くの方々にお力添えをいただきました。また2回目の開催を終えたことで多くの課題も見えてきました。出演者、観客、運営者が思いを共有し、また自ら参加意識を持っただけの「新琴似音楽祭」の在り方を考えていく所存です。



新琴似音楽祭実行委員会ではボランティアスタッフを募集しております。
詳しくは下記までお問い合わせください。

○ お問い合わせ

新琴似音楽祭実行委員会
TEL.090-2874-5368

Eメール
shinkotoni.ongakufes@gmail.com

2. 若いパワーでまちを元気に！

地域の即戦力を育てるbisenの職業実践教育

グラフィックデザイン専攻の実践プロジェクト

学校法人美専学園 北海道芸術デザイン専門学校 教務部長 ^{たかはし}高橋 ^{みえ}美絵

【地域社会と連携した職業実践専門課程の学習活動】

北海道芸術デザイン専門学校は、平成26年度に昼間部の2年制全学科において文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受けました。「職業実践専門課程」とは、専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することにより、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行い、高度な職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としています。本校では昼間部4学科9専攻が認定され、各専門分野の関連企業や地元自治体等と連携しながら、より専門性の高い職業教育を行い、クリエイティブな分野で即戦力として貢献できる人材の育成を目指しています。今回は、平成28年度産業デザイン学科グラフィックデザイン専攻で取り組んだ、北区地域振興課との連携事例についてご紹介したいと思います。

【北区地域振興課との実践プロジェクト】

本校の職業実践専門課程では、各専門分野のデザインワークに必要な基礎的スキルを身に付ける多様なトレーニング課題の他、地元企業や地域の方々にクライアントとなって頂き、オリエンテーション・実制作・完成した成果物のプレゼンテーションまで、プロのデザイナーが日常行っている

のと同様の実務プロセスを体験する「クライアントワーク実践プロジェクト」を授業課題に取り入れています。今年度グラフィックデザイン専攻2年生が前期授業で取り組んだ北区地域振興課様との地域連携実践プロジェクトでは、「第4回百合が原音楽祭」のPRポスターの制作に取り組みました。

オリエンテーションの場では、地域振興課の方々からどのような趣旨・内容のイベントなのか、会場の百合が原公園とはどのような場所なのか等、詳しくご説明頂き、そこに自分なりのリサーチや考察を加えて約3週間でポスターを制作。プレゼンテーションでは、完成した作品を一人ずつ発表し、北区地域振興課様との質疑応答に臨みました。全員の作品を持ち帰っていただいた後、地域振興課内での第一次選考でまず10作品が選出され、後日、地下歩行空間と太平百合が原まちづくりセンターで一般市民の皆様による投票を経て、最終的な受賞作品として優秀賞3点・最優秀賞1点が決定。最優秀賞に選ばれた杉本さんの作品は、実際にイベントポスターやチラシのデザインとして採用されています。北区役所で行われた表彰式では、北区長様から賞状と副賞が授与され、受賞した学生達のみならず制作に取り組んだ全員にとって、多くの気付きが得られた実践的学習となりました。





なった」「クライアントの要望に応えるものを作ることに大きなやりがいを感じた」等、専門スキルを身に付けるトレーニング的課題制作だけでは体験できない、緊張感や責任感、様々な気付き、職業意識の高まり等が生じている様子を確認することができました。また今回は、一般市民の皆様による投票結果が反映されたこともあり、事前に自分たちが良いと思っていた作品と、第三者による評価が必ずしも一致しないという現実や、視点の持ち方でデザインの伝わり方が変わることを実感した学生も多かったようです。

【今後の取り組み】

「クライアントワーク実践プロジェクト」は、多くの学生にとって1年次からの自身の成長や現段階での不足な点に気付くきっかけになっており、また指導する側にとっても、グラフィックデザインという分野が社会に果たしている役割について学生達に再認識させる貴重なキャリア教育の機会になっています。一方、連携する企業や地域社会の方々にとっても、「自分たちの日頃の業務が若者たちからはどう見えているのか」「ビジネスの新たなヒントとなるアイデアが得られた」等何らかの得るものがなければ組織として継続的な取組みにできません。学習者である学生達と協力者である連携先の皆様、双方にとって「学びが得られる場」となるように、今後も実践プロジェクトの取組み内容やシステムを工夫していきたいと考えています。

【プロジェクトを経験した学生達の学び】

本校グラフィックデザイン専攻では、例年1年次後期から2年次前期にかけて、企業との連携を含め複数の「クライアントワーク実践プロジェクト」に取組んでいます。大切なのは、これらの取組みを通じて学生達にどのような学びが得られたのかという点です。検証のために行った学生達の振り返りレポートからは「クライアントが本当に求めているものは何か」「クライアントとポスターを見る人、両方を意識して作る事が重要」「情報の受け手に対しわかりやすく伝えるための工夫が勉強に

○ お問い合わせ

学校法人美専学園
 北海道芸術デザイン専門学校
 札幌市北区北24条西8丁目1-12
 TEL.011-756-0777 (代表)
 URL <http://www.bisen-g.ac.jp>

2. 若いパワーでまちを元気に！

「もっとにっこり!!!」な鉄西地域を目指して

鉄西まちづくり学生推進委員会会長 (テスク&祭人代表) 熊谷 脩平

私が幸運にも鉄西地域と非常に深い関わりを持たせていただくことができていたのは、今考えると本当に偶然なことでした。私は北海道大学に入学した当初、貴重な大学生活を有意義にするために、大学の新生歓迎イベントに積極的に参加していました。そしてその結果、数え切れないほどある部活やサークルの中から一番興味を持った、現在所属しているチームである「テスク&祭人」という北海道大学のYOSAKOI チームが、偶然鉄西地域と深い関わりを持っていたからです。私は「テスク&祭人」に所属している先輩方の人柄に惹かれてこのチームに入ることを決めたので、当初は鉄西地域がどのような魅力のある地域かということはもちろん、どの地域を指しているのかもわかりませんでした。しかしこの団体で鉄西地域の方々との交流をもつにつれ、この地域の魅力を沢山知ることができて、どんどん好きになっていきました。私は小学生の頃から大学に入るまでの10年間、野球しかやってこなかった者なので、連合町内会の方々や地域の子供たちとの活動はどれも非常に新鮮なことで、新しい経験を楽しく沢山積ませていただいています。そんな鉄西まちづくり学生推進委員会の活動を簡単に紹介させていただきます

私たち鉄西まちづくり学生推進委員会は、一年中様々な活動を行っている団体です。春は私が所属している「テスク&祭人」と、「北海道大学“縁”」という二つのYOSAKOIチームが地域住民の方々にYOSAKOIの演舞を披露させていただいています。鉄西地域の方々に演舞を披露することができるのは、この披露会と、後述している秋の「もっとにっこり!!鉄西秋祭り」のみなので、メンバーも非常に気持ちを込めて踊らせていただいています。今後も演舞を通して地域の方々を元気にすること



ができればと考えています。

夏は、子供たちと鉄西地域の危険な場所を調査し、安全マップを制作するというイベントや、鉄西夏祭りでの出店、お手伝いなどをさせていただいています。私達の団体は子供が大好きなメンバーが多いのでいつも楽しみに活動させていただいています。子供達から名前を憶えられているメンバーもあり、深い交友関係を築くことができているので、更に関わりを持てるようになって地域が活性化されることに繋がればと考えています。



さらに秋には、私たち鉄西まちづくり学生推進委員会主催の「もっとにっこり!! 鉄西秋祭り」を開催させていただいています。私たちの団体が発足したきっかけでもあるこのお祭りは、運営、企画、出店、広報など全てを自分たちでプロデュースさせていただいているので、非常にやりがいを感じています。北海道各地から特産品を出店してもらったり、餅まきやビンゴ大会を企画として行ったりしています。また、お祭りを開催するにあたり、多くのお店や企業から協賛をお願いしています。このように自分達が一からプロデュースしても地域の方々からの支援がなければ開催することはできないお祭りですので、常に感謝の気持ちを持って活動しています。私達はこのお祭りを今後もこの地域を盛り上げるべく継続させていけたらと考えています。

冬は毎年2月に大通公園で開催される「さっぽろ雪まつり」に雪像製作という形で参加させてもらっています。これまでは北海道大学の建物を主に作り続けてきたのですが、今年は第25回YOSAKOIソーラン祭りで演舞させていただいた「お魚うおーず」というテーマを雪像で表現させていただきました。

このような活動は、メンバーにとって貴重な知識や経験を身につける場ともなっています。子供や高齢者など様々な層との交流は、新しい価値観や知識に触れるきっかけとなりますし、秋祭りの主催や雪像製作などは、アイデア力の向上、達成感や充実感を得る絶好の機会となっています。

私たちが様々な活動をすることができるのは、地域の方々や、連合町内会の皆様、そして常に私達の活動を支援してくださっている鉄西まちづくりセンターの支えや応援があるおかげです。このような鉄西地域との深い関係は歴代の先輩たちが積み上げてきた良き伝統であるので、この伝統をいつまでも守っていけたらと思っています。

鉄西地域が今まで以上に活気のある地域になるためには、鉄西地域に住んでいる子供から高齢者までの全ての人が交流を持つ必要があると考えています。その交流の機会を作るべく、鉄西まちづくり学生推進委員会は「全ての人がもっとにっこりしている地域」をコンセプトにこれからも精進して参ります。どうぞよろしくお祈りします。

○ お問い合わせ

鉄西まちづくりセンター
TEL.011-726-5285

2. 若いパワーでまちを元気に！

学生から。地域から。顔が浮かぶ。

学生と地域で考えるまちづくり会 (NeoLos幌北) 代表 わたなべ てんま 渡邊 天磨



ウォーキング大会に向けた学生と小学生との授業交流

NeoLos幌北って？

“地域に根を下ろして” 幌北地区で活動する
NeoLosネオロスは、2007年に地域のお祭りの手伝いを
きっかけに発足しました。

メンバーは大学生や地域住民で構成されており、
幌北小学校、幌北児童会館、民間企業等とも連携
して活動しています。毎月のネオロス会議では、
地域行事の打合せだけでなく、「ラジオ体操に来て
くれませんか？」といった身近な相談も受けます。

しかし、お手伝いをするボランティアだけがネ
オロスの活動ではありません。行事の企画段階か
ら地域と共に頭を悩ませ、時には学生の斬新なア
イデアを主体的に提案していく、あくまで学生と
地域が対等な立場にある団体です。



具体的な活動は？

①「秋のウォーキング大会」



秋の北大を歩きながら**多世代交流**を図ります。幌北小学校の授業行事のため、企画や運営は子供たちが主導し、学生や地域はあくまで安全面や設営などの補助に徹します。

また、学生が事前に授業に参戦することで、顔や名前を覚えて貰え、当日は**子供たちのほうから積極的に話しかけて**くれました。

②「謎解き宝探しイベント」



参加者は地図と謎の書かれた紙を使って次の目的地を導きます。幌北を実際に歩くことで、まちな魅力を発見してもらいます。

地域ではなく、**学生が自ら発案し、企業と協同で企画・製作・広報・運営を進め、地域を巻き込んだ所に特徴があるイベント**です。

参加者は2日間で150人に上り、「謎の解き応えがあり、**普段行かない所に行くきっかけになった**」との感想を頂きました。

“地域に根を下ろす”とはなにか。僕なりの答えは、地域の人の『**顔が浮かぶ**』こと。この人がいるからまた幌北に戻ってきたい。そう思える活動を続けていければいいと思います。

ネオロスへ一言



幌北小学校 5年1組
たかはしはると君

ネオロスさん、ウォーキング大会の準備と一緒にしてくれてありがとうございます。



幌北小学校
上野先生

ネオロスのイベントの陰で、子供たちが**地域に目を向ける**いいきっかけになっています。



幌北児童会館
林館長

いつも子供の相手をしてくれて感謝しています。子供も大学生と遊べて喜んでと思います。



幌北連合町内会
小田島会長

学生が関わる町内会はなかなか無いんです。夏祭りでは、**学生さんの活気にいつも助けられて**ますね。

※似顔絵は幌北まちづくりセンター Yさんに描いて頂きました

○ お問い合わせ

TEL.011-726-6345

(幌北まちづくりセンター)

Eメール

neolos.horokita@gmail.com

(NeoLos幌北)

2. 若いパワーでまちを元気に！

コラム④ 平成28年度 札幌市市民交流ウォーキング大会



青空の下、元気に歩く参加者のみなさん

今年で9回目を迎える札幌市主催の市民交流ウォーキング大会が平成28年5月23日（月）に開催されました。今年は北区が担当区として「北区健康づくり協議会」の協力を得て実施し、新琴似安春川河畔から屯田防風林を4km・8kmの2コースに分かれ、約300名が参加されました。当日は晴れ渡る空の下、100名程のボランティアさんのご協力もあり、大きな事故もなく、楽しく歩き皆さんゴールすることができました。

また、ウォーキング大会の開催にあたっては、記念品の缶バッジに掲載する北区の特性を生かした健康づくりキャラクターを作成することとし、北区にある北海道芸術デザイン専門学校の協力を受け、授業の一環としてキャラクターを考えてもらいました。



藤井区長より表彰状を受取る砂田さん



受賞された橋場さん(左) 砂田さん(中央) 後木さん(右)

応募80点の中から健康づくり協議会の委員さんにも入って頂き、3作品を選考し、平成27年12月に表彰式を行いました。

- ★最優秀賞『ぼっぴい』…ポプラの葉をモチーフにし、服は安春川をイメージ胸には札幌市の星マーク、尻尾はイチヨウの葉、頭の飾りはポプラの綿毛です。
- ★優秀賞『きだっく』…かわいらしく、ベースは鴨で頭飾りはポプラの葉、服は正面から見ると「北」の字に見えます。
- ★特別賞『マイちゃん』…安春川、ポプラ並木、イチヨウ、北区のシンボルをイメージしてデザインされています。

最優秀賞の『ぼっぴい』は、平成28年1月19日付北海道新聞朝刊「まちダネ！」コーナーにも掲載されました。また、3作品は市民交流ウォーキング大会の缶バッジやタオル、大会用マップに使用し、『ぼっぴい』は今後も北保健センターのイメージキャラクターとして様々な事業に活用予定です。

【お問い合わせ】 北区保健福祉部健康・子ども課 TEL.011-757-1181